

東京電力株式会社 柏崎・刈羽原発6・7号機運転強行「再開」、1号機「再開」策動に異議あり

2010年5月10日

東京電力株式会社 社長 清水 正孝 殿

柏崎・刈羽原発の再開と断層問題に対する質問と要請

私たちは25年間、全国各地から自転車でリレー方式により、6月23日、沖縄慰霊の日前後にスタートし、8月6日ヒロシマ、8月9日ナガサキ、六ヶ所村を最終目的地として、全国の人々と連帯しながら、反戦、反基地、反核・平和、人権、環境保護を訴えているピースサイクルという市民団体です。

今年は結成25年を祝い、全国から参加するイベントを5月29日に企画しています。また、5月28日、6回目の「国会ピースサイクル」として関係省庁に市民の声を平和のメッセージとして届けます。

さて、貴社は2007年の中越沖地震における柏崎・刈羽原発7号機を昨年12月と本年1月、現地住民、新潟県民、安全を求める国民の疑問点を明らかにしないまま、また、慎重な議論を求める声に反して運転を強行しました。

私たちは、中越沖地震を経験し、柏崎・刈羽原発が軟弱な地盤に建設され、また活断層の近くにあり「原発震災」を引き起こす危険性が高いとの不安がますます拡大しています。貴社の「耐震偽装」ともいえる「検討」は再度見直され、廃炉を考えた科学的検討が必要だと考えます。

以下の点について、貴社の責任・誠意ある回答を文章で出していただくと共に安全に対する姿勢を示していただけるようお願い致します。

質問書

1. 建屋のコンクリート壁強度の問題についてお伺いします。

- (1) 5号機タービン建屋1Fの現地立ち入り調査による結果、コンクリートの厚さ60cmの壁が0.4mm、長さ2.8m（裏— {E014} ; 0.1mm幅、3m長）にわたり、貫通していることが発見されました。貴社のひび割れ管理要綱によれば幅0.4mm以上のものは管理対象になるとされているそうですが、立ち入り調査以前はわからなかったこととなります。貴社の目視検査がいかにかいい加減なものだったかを証明しているのではありませんか。このことに対してお答えください。

(2) 5号機の調査と結果において明らかになったように、詳細検討を必要とする評価基準値1mmの1/2未満であっても貫通するにもかかわらず、これを「ばらつきの範囲」とすることはコンクリートひび割れ幅の評価基準値自体があまりにもいいかげんなものではないかとの疑問があります。評価基準は誤りであり見直しが必要ではありませんか。お答えください。

(3) 建屋におけるコンクリート実強度を貴社のみが用い評価していますが、他の電力会社は、設計強度を用いています。他電力会社と異なる理由についてお答えください。そのコンクリート強度判定のサンプル数は各号機につき2点のみであり、強度判定にはあまりにも少ないといわざるを得ません。そのサンプルの採取、場所、日時と、問題がないとした証拠、根拠を示してください。

2. 地層断層の問題について質問します。

(1) 貴社は柏崎・刈羽原発1号機の設置許可にあたって、当時の安全審査において「原発は岩盤に支持をされなければならない」と決められていたにもかかわらず、軟らかい地盤に建てたのではないかと。そして、テストピースには試験に耐えうる部分だけを提出したのではないかと。という重大な疑問が現在も現地をはじめ多くの住民、柏崎・刈羽原発の安全問題に関心を寄せる新潟県民に根強く存在しています。2007年の中越沖地震における予想を超える大きな地震動の発生と被害の大きさによって、多くの住民の不安がマンメイドロックという地盤改良では解消されないことは明らかです。テフラの水平性論は打ち破られたのではないですか。地層地盤が安全だという根拠を明らかにしてください。

(2) 中越沖地震後の柏崎・刈羽原発の耐震評価をめぐっての評価基準値について、貴社は佐渡海盆東縁断層帯の断層の長さについて4回も変更し、現在では36kmとしていますが、学者の中には50から60kmの評価ができるとの意見があります。これによれば、マグニチュード7.5以上にも上ることが予想されるそうですが、真摯な科学者の調査研究と現地住民の長い歴史の中での経験と調査に基づく判断は、非常に重要な判断要素だと考えます。貴社による海上音波探査による測定・画像処理だけにその判断を頼ることは、安全軽視につながるではありませんか。

3. その他について

(1) 7号機再循環系インターナルモーターケーシングの減衰定数は1%だったのではないですか。

(2) 大間原発における設計において建屋底面積が2倍にも拡張したにもかかわらず、縦ゆ

れが大きかった同型の柏崎・刈羽原発 6 号機の底面積が拡張されないのはなぜでしょうか。

(3) 7 基の中で地震の揺れがもっとも大きかった 1 号機の再開をしようとしていますが設計時 273 ガルだったものを 2,300 ガルに想定した補強工事とはどのような、また、どの部分を補強したのですか。

(4) 六ヶ所村の再処理工場が試運転で難航し操業できない現状で、使用済み燃料棒が満ち溢れています。このままだと中間貯蔵施設が最終処分地となってしまいます。貴社の社会的責任と今後の展望をお聞かせください。

以上

要請書

1. 中越沖地震で被災した刈羽・柏崎原子力発電施設や老朽化した原発を速やかに廃炉にしてください。
2. 以前から指摘されている「F-B 断層」北方の調査を意見の違う学者と共同で徹底的に行ってください。
3. 六ヶ所村再処理工場のめどが立たない現状の中、経済コストが高い、運転管理が難しいプルサーマルを東京電力福島第 1 原発 3 号機をはじめとした、すべての発電施設で行わないでください。

以上

▼訪問日時

5 月 28 日（金）14 時 30 分から 40 分程度

ピースサイクル 2010 全国ネットワーク

連絡先 東京都千代田区三崎町 2-6-2 ダイナミックビル 5F たんぽぽ舎内

担当者 橋本 輝之 090-5345-6965

平田 一郎 080-5386-9921